

第1回安曇野市図書館協議会 会議概要

- 1 審議会名 第1回安曇野市図書館協議会
- 2 日 時 平成 18 年 7 月 12 日 午後 1 時～午後 5 時
- 3 会 場 明科総合支所大会議室(2階)、市内図書館5館(視察)
- 4 出席者 青木委員、櫻委員、清沢委員、小福委員、金子委員、千国委員、栗林委員、小林委員、望月委員、加々美委員、三重野委員、篠島委員、二村委員、熊井委員、堀委員
- 5 市側出席者 望月教育長、小林教育次長、松枝社会教育課長、曾根原文化振興係長、財津文化振興係主査、堀文化振興係主任、百瀬豊科図書館長、藤森豊科教育課長、内川豊科図書館主査、尾台穂高図書館長、北澤穂高図書館副主幹、三澤三郷図書館長、那須野三郷教育課生涯学習係長、太田三郷図書館司書(非常勤)、唐沢堀金図書館長、斉藤図書館司書(非常勤)、竹田明科教育課課長補佐
- 6 会議概要作成年月日 平成 18 年 7 月 26 日

1.開会

2.教育長あいさつ

3.委嘱状の交付

4.自己紹介

5.博物館協議会の情報公開について

6.本日の日程について

7.協議事項

(1) 会長及び副会長の選出について 櫻会長、望月副会長

(2) 平成18年度事業計画等について

【安曇野市図書館の平成18年度事業計画の説明】了承

(3) 図書館資料収集要綱、選書基準、除籍基準等について説明

・これは各館に対してそれぞれ適用するのか。例えば新聞は、同じ新聞が5館で保存されることになるのか。

・除籍するものに関しては、各館で独自に行うのか、連携というものはないのか。

・保存年限が全体で決められているか。各館で分担保存というのは、その辺りは？

・今安曇野市で新しい図書館を作る動きの方の考え方はどうなんでしょうか。5館同じものをそろえなくても、1種類あればいい。新しい図書館の保管基準にのっとってやればどうか。

・これは新しくできる図書館を想定した条文か。それによって考え方が違ってくる。今ここで述べられている5年とか3年というのは原則だと思う。それは各館の実情に応じて、スペースとか、様々な状況を考えて、これ以内でやってしまえばいけないという、ゆるやかな基準を定めたものだと思う。問題はこの規定が施行日が入っていないから、施行日を入れる為には、この場で良いか悪いか結論を出さなければいけない。という事で、会長の方に交通整理をお願いしたい。

・この要綱自体が、今の新しい図書館が建設される事を前提にしているのではなく、現状の部分での要綱。

現在安曇野市で5館あるが中央図書館という位置付けはひとつもない。それから各5館においても、それぞれ図書館の館長の話の中に十分な閉架書庫、資料保存の倉庫的なものが現状無いのが現状。それで今新しい図書館についての検討委員会の議論がされている。その中で若干方向性が出たのは、安曇野市においての中央図書館が必要ではないかと、それと各地域の住民に手近な地域の図書館=分館が必要という議論がある程度固まってきている。中央図書館では、ある程度閉架の部分については中央図書館が担って、各地域の分館は閉架的な書庫は持たなくてもいいのではないかという方向性が出ている。そういった事が決まってくれば、除籍基準という事が一部変更された中で解決されていくと。今現在の除籍規定は先ほど清沢委員さんが問題にされたできる規定という事でなければならないという事ではなく、各館の事情によってできる規定とい

う形で。それから、こういったおおまかな基準で作ってもなかなか網羅できない部分がある。この条文に合わないものは館長の判断という事も部分的には出てくると思う。この要綱については現状の5館という事の中で位置付けられているという事。

- ・例えばマイクロフィルム等で古いものを保管するとか、そういう考え方はどうか。
- ・現実的な詳細部分につきましては、5館の館長さんに任せられているので、先程来ご意見が出ている事など、除籍規定に関してもう少しご意見があれば出して頂いて閉会したいと思う。
- ・現状を信任する形で、運用に問題が無ければこれでOKという事にしたらどうか。
- ・この施行に入れるのは議会か何かにかかるか。
- ・教育委員会の定例会議にはかりながら最終決定。ですから議会の議決は必要ない。
- ・各館でやるというのはわかるが、他の地区の事はわからない。例えば広報等にページを割いて、除籍の際には希望者に提供する等されたらどうか。一年に一度会して一同に行って頂くとか。何らかの形でお考え頂ければよいが。
- ・広報をしながら公平に、そういう観点は考えていきたいと思う。
- ・本日の会議において、施行するというこの案を認めたらどうかという事だが、施行するという事で、会議決議という事にしたいと思うがいかがか。

【一同賛成】

(4) 現在検討がなされている交流学习センターについて

- ・交流学习センターの委員会は相当図書館を利用されている方々が選出されているか。
 - ・そう認識している。
 - ・中央図書館の閉架部分というのは、開架になった時にオープンもされるという事か。書庫という事か。
 - ・あくまでも、検討委員会の中でこういう数値としてまとめつつあるという内容。検討委員会の議論の結果として5万冊入る閉架書庫を建設する方向で動いている。それについてはこれから議論することになる。検討委員会では、膨大な閉架書庫より、なるべく開架のスペースをとりたいという気持ちがある。
 - ・それはそうですが、リクエストとか予約の部分に添えていくという視点に立てば、その市独自で利用者の要求にこうかいてやっぱり閉架部分はもう少しあった方がいいような気がする。
 - ・蔵書、目標として40万冊というのはいわゆる10万都市として恥ずかしくない数値か。まあ聞いた所によればね、日本図書館協会が示したデータをそっくりそのまま載せているような感じ。
- これは40万冊の捉え方だが、この数値の出し方ですが、全国ベースのデータの中で、全国の公共図書館の中で、貸し出し件数が多い上位10%の図書館の数値の平均値を安曇野市の人口と掛け合わせている。上位10%ですから、蔵書数はかなり多いと思っている。そういった計算で40万冊というトータルをおさえてある。

協議終了

8 閉会

市内図書館5館視察